

中間評価シート

中間評価（表紙）

大分市歴史的風致維持向上計画（令和元年6月12日認定） 中間評価（令和元年度～令和5年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物の保存・活用に関する方針	4
II 歴史的風致の周辺環境整備及び景観形成に関する方針	5
III 歴史的風致の情報発信と観光への活用に関する方針	6
IV 伝統行事や伝統文化の継承に関する方針	7
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 歴史的資源について情報発信が図られたことによる市民認知度の向上	8
ii 歴史的風致の周辺環境整備が図られたことによる地域防災力および住環境の向上	9
iii 観光的魅力の向上によるにぎわい創出に伴う中心市街地の歩行者通行量・回遊性の向上	10
iv 祭礼や伝統行事の活動継続に伴う地域の活性化	11
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 大友氏遺跡歴史公園整備事業	12
B 重要文化財柞原八幡宮本殿他4棟保存修理事業	13
C 大友氏遺跡情報発信事業	14
D 地域資源活用人材育成事業	15
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 柞原八幡宮の祭礼にみる歴史的風致	16
2 新旧府内の祭礼にみる歴史的風致	17
3 萩原のまちと祭礼にみる歴史的風致	18
4 三佐の人形山車にみる歴史的風致	19
5 鶴崎のまちと祭礼にみる歴史的風致	20
6 本神崎の祭礼にみる歴史的風致	21
7 佐賀関のまちと早吸日女神社の祭礼にみる歴史的風致	22
8 戸次本町のまちなみと祭礼にみる歴史的風致	23
9 野津原の祭礼にみる歴史的風致	24
■ 庁内体制シート（様式6）	25
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	26
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	27

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	柞原八幡宮の祭礼にみる歴史的風致	I, III, IV	
2	新旧府内の祭礼にみる歴史的風致	I, II, III, IV	
3	萩原のまちと祭礼にみる歴史的風致	III, IV	
4	三佐の人形山車にみる歴史的風致	III, IV	
5	鶴崎のまちと祭礼にみる歴史的風致	I, II, IV	
6	本神崎の祭礼にみる歴史的風致	I, IV	
7	佐賀関のまちと早吸日女神社の祭礼にみる歴史的風致	I, IV	
8	戸次本町のまちなみと祭礼にみる歴史的風致	I, IV	
9	野津原の祭礼にみる歴史的風致	III, IV	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史的建造物の保存・活用に関する方針		
II	歴史的風致の周辺環境整備及び景観形成に関する方針		
III	歴史的風致の情報発信と観光への活用に関する方針		
IV	伝統行事や伝統文化の継承に関する方針		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	歴史的資源について情報発信が図られたことによる市民認知度の向上		
ii	歴史的風致の周辺環境整備が図られたことによる地域防災力および住環境の向上		
iii	観光的魅力の向上によるにぎわい創出に伴う中心市街地の歩行者通行量・回遊性の向上		
iv	祭礼や伝統行事の活動継続に伴う地域の活性化		

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	大友氏遺跡歴史公園整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	重要文化財 柞原八幡宮本殿他4棟保存修理事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	大友氏遺跡情報発信事業	その他	
D	地域資源活用人材育成事業	その他	

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
方針	I 歴史的建造物の保存・活用に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史的建造物の保存活用に必要な措置を講じてきたが、建造物の修繕などに掛かる費用負担が大きいことや老朽化の進行、耐震化に対応できていないなど、十分な保存や活用が図られていないものが多い。また、未指定の文化財は歴史的、文化的な価値が共有されていないため、適切な維持管理が行われず滅失や改変の危機に瀕している。

【方針】指定文化財の歴史的建造物については、文化財保護法などにに基づき適切に保存するとともに、専門家等からの指導・助言を受け補修を行い、保存・活用を図る。また未指定の文化財は登録有形文化財への登録を検討する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	大分城址公園整備・活用事業	サイン看板および演出照明の設置	あり	H29～R8
2	大友氏遺跡歴史公園整備事業	発掘調査および庭園の復元	あり	H28～R10
3	重要文化財 柞原八幡宮本殿他4棟保存修理事業	重要文化財指定の本殿他4棟の修理	あり	H30～R7
4	国史跡「大分元町石仏」保存管理事業	脱塩処理の実施	あり	R1～10

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

◆大分城址公園整備・活用事業

大分城址公園において、「大分城址公園整備・活用基本計画」に基づき城壁をライトアップする演出照明を30基設置するなど歴史文化観光拠点として整備・活用を行っているが、令和2年5月からPCR用検体採取場の設置をしたことや、令和4年5月から荷揚町小学校跡地複合公共施設整備事業に伴う臨時駐車場として利用していることから、発掘調査を行っていない状態である。



大分城址公園ライトアップの様子

◆大友氏遺跡歴史公園整備事業

2030年の大友宗麟生誕500年に向け、R2年度に庭園整備を行った。大友氏に関連する催しが行われるなど地域交流の場として活用されている。

◆重要文化財 柞原八幡宮本殿他4棟保存修理事業

重要文化財に指定されている本殿他4棟において耐震補強や彩色の復元などを行っている。工事中においても参拝者が安全に参拝できる様施工者と調整を行い事業を進めている。

◆国史跡「大分元町石仏」保存管理事業

平安時代に造られた摩崖仏が塩害により風化していることから、和紙を利用した脱塩処理を令和2年・令和5年に実施した。また、塩類風化対策の試みは、海外から視察に来るなど、世界的な文化財の保存に貢献している。



元町石仏脱塩処理の様子

④ 自己評価

大分城址公園整備・活用事業において、整備に遅れが生じたが、その他の歴史的建造物に関する事業としては計画通り進捗している。

⑤ 今後の対応

PCR用検体採取場設置などの影響によって遅れている大分城址公園整備・活用事業については、他の事業動向を踏まえて整備を進めるとともに、新旧府内の祭礼にみる歴史的風致の維持向上を図っていく。その他の歴史的建造物においても保存のための取組を継続的に行っていくとともに未指定の文化財については維持・保存に向け、発掘調査などの調査に基づき適正な保全を図り、広報による市民認知度の向上に努めていく。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
方針	Ⅱ 歴史的風致の周辺環境整備及び景観形成に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】歴史的風致は、歴史的建造物だけでなく、その周辺環境と一体となって形成されるものであるが、それを阻害している電柱や樹木などによって一体的な景観が阻害されている。また、歴史的風致のある地域を結ぶ道路の歩行空間の整備や拠点からの交通手段が無いなど、交通アクセスに関する対応が不十分である。

【方針】景観については、各種まちづくり施策との連携や景観形成ガイドラインなどに準拠し景観形成を図るとともに、歴史的建造物や自然環境と一体となった歴史的まちなみの保全形成に努める。また、周辺道路の無電柱化や美装化を図るとともに、シェアサイクルの整備や公共交通によるアクセスの向上を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	道路美装化・修景事業 (都市計画道路中島錦町線)	歩道修景整備、植栽整備、 ポケットパーク修景整備	あり	H29～R1
2	無電柱化・修景事業(市道府内 3号線・市道府内11号線)	無電柱化及び修景整備、照明灯設置	あり	R1～5
3	鉄道残存敷における歴史的風 致の回遊ルート整備事業	中心市街地の回遊性を目的とした整備	あり	H28～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

◆道路美装化・修景事業(都市計画道路中島錦町線)

歩道修景整備を5,296㎡行った。整備に先立って発掘調査を行った発掘の成果を市民に発信するため、タイルの色分けをすることで16世紀後半の道路を表現するなど歴史的背景を踏まえた修景整備や歴史的な経緯を示した説明板をポケットパークに設置することで景観形成とともに情報発信が図られた。



道路美装化・修景整備後

◆無電柱化・修景事業(市道府内3号線・市道府内11号線)

無電柱化およびまちの歴史的背景を踏まえた路面のデザインなどの修景整備、照明灯設置をL=530m区間で実施したことで、若宮八幡神社夏季祭礼ルートの安全・安心な歩行空間の形成が図られた。

◆鉄道残存敷における歴史的風致の回遊ルート整備事業

JR大分駅付近連続立体交差事業によって生まれた土地を大友氏遺跡や西大分湾岸交流拠点などの連携軸として大分県と連携し整備を進めている。

令和元年には大友氏遺跡庭園を展望する眺望デッキが整備され庭園と連動した活用が図られている。



大友氏遺跡庭園を展望する眺望デッキ

④ 自己評価

無電柱化及び道路美装化などの実施により、調和のとれた景観形成に寄与している。特に鉄道残存敷における歴史的風致の回遊ルート整備により、大友氏遺跡へのプロムナードとして相乗的な効果が発揮されている。

⑤ 今後の対応

引き続き歴史的施設を含めた周遊ルートにおけるまちなみ修景等の事業を進めることにより、歴史的風致の周辺環境整備及び景観形成を図っていく。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
方針	Ⅲ 歴史的風致の情報発信と観光への活用に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】本市では歴史的風致を学ぶ機会として既存の「大分市歴史資料館」による展示や大友氏遺跡体験学習館を「南蛮BVNGO交流館」としてリニューアルするなど、情報発信に取り組んでおり、来訪者の増加に寄与してきたが、更なる認識向上に向け歴史的風致についての情報提供や案内、イベント等の取り組みが今後も引き続き必要となる。

【方針】歴史的風致に関するマップの作成、ガイドの育成、SNSなどを通じた情報発信やイベント開催などによる歴史的風致への広報に努め、認識の向上を図り、観光への活用を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	大友氏館跡庭園整備見学ツアー	見学ツアーを4回実施	あり	H30～R1
2	大友氏遺跡周辺史跡案内サイン設置	案内板などを12基設置	あり	H30～R2
3	大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント	庭園完成年度から継続して毎年イベントを実施	あり	R2～7
4	大友氏遺跡情報発信事業	ガイダンス施設での発掘品等の展示	あり	R1～10
5	大友プロモーション事業	毎年「宗麟公まつり」の実施	あり	H30～R10

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

◆情報発信関連事業

- ・大友氏遺跡庭園整備見学ツアー
- ・大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント
- ・大友氏遺跡情報発信事業
- ・大友プロモーション事業

上記の事業によるイベントなどを通して大友氏や大友氏遺跡のPRを行い、市民や来訪者への認識の向上を図るとともに、観光への活用を行った。

特に大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベントは令和2年に庭園の完成イベントとして実施し、令和3年からは大友宗麟のPRを目的とする宗麟公まつりと合同で開催され、2日間で4,754人(令和5年度)が訪れ発掘現場の見学など催しを通して市民や来訪者の学習機会の創出を図るとともに歴史的風致への認識の向上に寄与した。

◆大友氏遺跡周辺史跡案内サイン設置

大友氏遺跡及びその周辺の歴史文化資源に関する情報発信を図るため、遺跡説明板や案内サインを設置し、来訪者の回遊性の向上や歴史的価値の理解の促進につながった。



宗麟公まつり



大友氏遺跡説明サイン

④ 自己評価

上記事業におけるイベントの来場者数と南蛮BVNGO交流館の来館者数は毎年増加しており、歴史案内板やパンフレットの発行、SNSなど様々な情報媒体による広報により認識の向上が図られ、地域における歴史的風致の維持向上に寄与している。

⑤ 今後の対応

今後も、大友氏遺跡の発掘調査の現地説明会や出土品等の展示等により、本市の歴史文化の魅力や価値をわかりやすく情報発信し、歴史的風致に対する市民意識や認知度の向上及び観光への活用を図る。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
方針	IV 伝統行事や伝統文化の継承に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】伝統行事や伝統文化は実施する組織の高齢化や人口減少により、技術・しきたりなどの継承や活動が困難となりつつあり、指導者の確保や後継者の育成などが課題である。

【方針】活動継承のための取り組みとしては、若い世代、とくに子どもたちを対象として、勉強会やイベントなどの活動に携わる機会の創出を図るとともに、その活動の意味や重要性、地域との歴史的なつながりを再確認し、継承への意欲を高める取り組みを地域や学校、関係団体などと連携しながら進める。併せて、継承への取り組みや、活動で使用する道具の修理などに対しては、適用可能な補助や助成により支援を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	大分城址公園整備・活用事業	大分城址公園ガイドの実施	あり	H29～R8
2	大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント	ツアーやガイド、火縄銃の発砲演舞の実施	あり	R2～7
3	大友氏遺跡情報発信事業	歴史講座や体験イベントなどを実施	あり	R1～10
4	地域資源活用人材育成事業	ボランティアガイドを17名育成	あり	H30～R1
5	柞原八幡宮等祭礼継承基盤整備事業	祭礼継承のための助成	あり	R1～10

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

◆地域資源活用人材育成関連事業

- ・大分城址公園整備・活用事業
- ・大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント
- ・大友氏遺跡情報発信事業
- ・地域資源活用人材育成事業

歴史を活かしたまちづくりを地域に定着させるため、「地域資源活用人材育成事業」により、地域資源の魅力を自ら発信する人材となる史跡ガイドの募集・養成を行い17名のガイドを育成し、他の事業とも連携して伝統行事や伝統文化も含めた地域資源の魅力を発信する人材を育成してきた。現在は平成29年から育成したガイドも含めて27名が在籍している。令和元年以降も「府内古図でまちあるきツアー」を実施するなどガイドが活躍する場を設け、情報発信を行う事業と連携して担い手の育成に取り組んでいる。



大友氏遺跡ガイドによる説明状況



柞原八幡宮等祭礼継承基盤整備事業 太鼓修理

◆柞原八幡宮等祭礼継承基盤整備事業

柞原八幡宮に関わる諸祭礼の構成要素である「供奉太鼓」をはじめとする無形民俗文化財の保存・継承を図るため、それらの保存団体や活動団体に支援を行っているが、令和元年度に祭礼に使用する太鼓の修理の支援を1件行って以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響で祭礼が中止・縮小され、事業の申請がなかった。

④ 自己評価

柞原八幡宮等祭礼継承基盤整備事業による祭礼に用いる道具の修理に対して費用助成を行うことで、伝統行事や伝統文化の継承に寄与することができた。また、地域資源活用人材育成事業等により、歴史の継承とともに地域コミュニティの活性化に繋がる人材育成ができた。

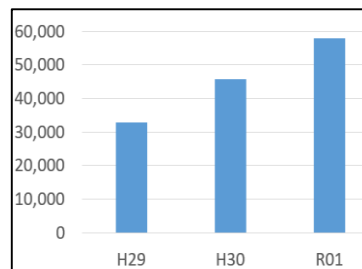
⑤ 今後の対応

祭礼などの活動継続のために保存団体の活動状況の把握を進め、支援体制や地域資源の魅力についての情報発信を積極的に行い、伝統行事の継承と歴史や伝統文化の継承を図っていく。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年																
効果	i 歴史的資源について情報発信が図られたことによる市民認知度の向上																		
<p>① 効果の概要</p> <p>大分城址公園における史跡を活かした仮想天守イルミネーションや国指定重要文化財柞原八幡宮でのヨガ講座の開催、FUNAIジュニア検定といった本計画における事業に位置付けられていない活動を行うことで、市民が歴史的資源に触れる機会を創出している。</p>																			
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大分城址公園整備・活用基本計画</td> <td>あり</td> <td>H29～R9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>柞原八幡宮保存活用計画</td> <td>あり</td> <td>H29～R7</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>史跡大友氏遺跡整備基本計画</td> <td>あり</td> <td>H27～R15</td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	大分城址公園整備・活用基本計画	あり	H29～R9	2	柞原八幡宮保存活用計画	あり	H29～R7	3	史跡大友氏遺跡整備基本計画	あり	H27～R15
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																
1	大分城址公園整備・活用基本計画	あり	H29～R9																
2	柞原八幡宮保存活用計画	あり	H29～R7																
3	史跡大友氏遺跡整備基本計画	あり	H27～R15																
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>■大分城址公園におけるイベントの実施</p> <p>大分城址公園仮想天守イルミネーションは、府内城の魅力を活かしたイベントの一環として、史跡を活かした公園を情報発信することを目的に、平成29年12月23日から令和2年2月14日まで実施した。多くの方が訪れ、史跡と公園の2つの魅力を市外の方にも広く情報発信を行うため、「エンジン01文化戦略会議オープンカレッジin大分」と併せて魅力発信イベント「城・デ・ナイトフィーバー」を開催したことで、府内城の歴史性や魅力発信効果の促進が図られ、朝のニュース情報番組「とくダネ」でも紹介された。令和元年10月19日と20日には府内城フェスティバル2019が行われ、三佐や萩原など市内の歴史的風致から山車が集結し、「やま揃え」が行われた。様々なイベントの実施により来場者数も毎年増加したことから、市民認知度の向上に貢献した。</p> <p>■国指定重要文化財柞原八幡宮 ヨガ講座の開催</p> <p>柞原八幡宮の自然環境を活用したヨガ講座を通じ「森林浴効果」を体感するイベントが過去3回開催され、計63名が参加した。ヨガを目的に訪れた市民が、歴史的風致を活用した活動により柞原八幡宮を訪れる機会が創出されている。</p> <p>■ FUNAIジュニア検定</p> <p>大分市教育委員会が主催する「FUNAIジュニア検定」で90点以上を獲得し、所定の研修を修了した小・中学生が、大友氏遺跡などの歴史的文化的遺産の来訪者に対してガイドを行う活動を行っている。FUNAIジュニアガイドは、これまで39名をガイドとして登録し、卒業などの減少を経て、現在22名が在籍しており、市が主催するイベントなどで活動を通して市民の認知向上に貢献している。</p>																			
<p>④ 自己評価</p> <p>イベントや検定を通して実際に歴史的資源に触れ、学ぶことをきっかけに文化財の価値について認識し地域の歴史への理解の醸成につながっている。</p>																			
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>今後も、他の施策や市民の活動と歴史的資源を結びつけることで、地域の歴史や文化について認知の向上に努める。</p>																			






大分城址公園
仮想天守イルミネーション



大分城址公園
仮想天守イルミネーション
来場者数



柞原八幡宮
ヨガ講座の開催

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年																				
効果	ii 歴史的風致の周辺環境整備が図られたことによる地域防災力および住環境の向上																						
<p>① 効果の概要</p> <p>無電柱化・修景事業の実施、鉄道残存敷における歴史的風致の回遊ルート整備事業における防災広場機能と雨水貯留システムの導入、文化財防火デーに実施する防災訓練により、地域防災力と住環境の向上が図られている。</p>																							
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大分市中心市街地活性化基本計画</td> <td>あり</td> <td>H20～R9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大友氏遺跡歴史公園周辺地区都市再生整備計画</td> <td>あり</td> <td>R3～7</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>大分市中心市街地地区都市再生整備計画</td> <td>あり</td> <td>R2～6</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>大分市道路整備保全アクションプログラム</td> <td>なし</td> <td>毎年更新</td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	大分市中心市街地活性化基本計画	あり	H20～R9	2	大友氏遺跡歴史公園周辺地区都市再生整備計画	あり	R3～7	3	大分市中心市街地地区都市再生整備計画	あり	R2～6	4	大分市道路整備保全アクションプログラム	なし	毎年更新
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																				
1	大分市中心市街地活性化基本計画	あり	H20～R9																				
2	大友氏遺跡歴史公園周辺地区都市再生整備計画	あり	R3～7																				
3	大分市中心市街地地区都市再生整備計画	あり	R2～6																				
4	大分市道路整備保全アクションプログラム	なし	毎年更新																				
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>■無電柱化・修景事業 道路上の電線・電柱は、地震などの災害時には電柱が倒れるなど種々の危険があることから、無電柱化は防災機能の強化に寄与するものである。また、道路と一体的に街路樹やポケットパークを整備することで、大地震や火災が発生した際は延焼の食い止めに寄与することから、本市では、上述の取り組み・計画に基づき整備を進めている。</p> <p>■鉄道残存敷における歴史的風致の回遊ルート整備事業における防災広場機能と雨水貯留システムの導入 JR日豊本線東側鉄道残存敷（線路敷ボードウォーク広場）整備において、多発する豪雨災害等への備えとして、予想される洪水の水位よりも広場部分を高くし、水栓・電源等を仕組み防災広場としての機能を持たせた。また、高架線路の日陰部分には雨水一時貯留機能を組み入れたことで、地区の洪水等に対する安全性を高めた。</p> <p>■ 防災訓練の実施 毎年、文化財防火デー(1月26日)には、市内の文化財のうち1か所を対象として、最寄りの消防署や地元消防団、自主防災組織と連携し、文化財施設での消火訓練などを継続して実施しており、未然の防止および災害発生時の被害抑制に努めている。</p>																							
<p>④ 自己評価</p> <p>安全性向上に向けた道路整備や雨水一時貯留施設整備などのハード対策に加え、ソフト対策として文化財施設での消火訓練などを継続して実施していることから、地元消防団、自主防災組織との交流が図られるとともに、地域防災力と住環境の向上に貢献している。</p>		 <p>市道府内11号線 無電柱化・修景事業完成</p>  <p>国指定文化財 亀塚古墳 防災訓練の実施状況①</p>  <p>国指定文化財 亀塚古墳 防災訓練の実施状況②</p>																					
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>今後も、本計画における事業の着実な推進と各種防災に関する取り組みを行うことで、地域防災力と住環境の向上を図る。</p>																							

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
効果	iii 観光的魅力の向上によるにぎわい創出に伴う中心市街地の歩行者通行量・回遊性の向上		

① 効果の概要

歴史的風致周辺の環境整備として無電柱化および道路美装化などの実施により、歴史的資源を誰もが利用しやすくするとともに、大友氏館跡庭園整備見学ツアーや大友氏遺跡フェスタなどの様々なイベントも実施することで、本市の中心市街地における歩行者通行量および回遊性の増加に寄与している。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	大分市中心市街地活性化基本計画	あり	H20～R9
2	大友氏遺跡歴史公園周辺地区都市再生整備計画	あり	R3～7
3	大分市中心市街地地区都市再生整備計画	あり	R2～6

③ 効果発現の経緯と成果

■歴史的風致周辺の環境整備に関する事業

無電柱化および道路美装化などの実施により、散策する歩行者の安全性と調和のとれた景観形成に寄与している。

■大友氏館跡庭園整備見学ツアー

大友氏館跡庭園の見学会や大友氏館内のガイドイベントを開催し、大友氏の歴史に関して周知を行い、歴史の認識向上が図られている。

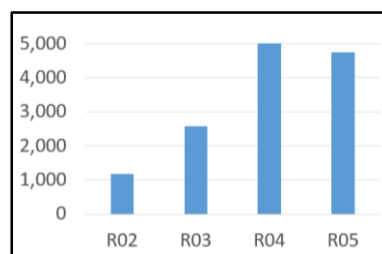


宗麟公まつりの様子

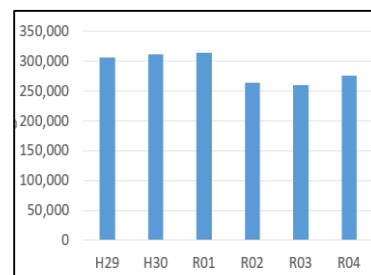
■大友氏遺跡歴史公園庭園公開イベント・

大友プロモーション事業

大友氏遺跡発掘調査を解説する現地説明会や甲冑づくりや豊後しぼり等を体験できるワークショップなど様々なコーナーを取り入れた大友氏遺跡フェスタと宗麟公まつりを開催している。イベントを通じて、来訪者の方々に大友氏の歴史に関して周知を行い、認識向上に貢献している。また、イベント開催日は中心市街地循環バス「大分きゃんバス」を全便無料としており、交通施策と連携した取り組みによる中心市街地の回遊性の向上を図っている。



大友氏遺跡フェスタ 来場者数の推移



大分市中心部における通行量調査結果

④ 自己評価

大分市中心部における通行量調査結果（土日計）では、平成29年度の306,720人から令和元年度の313,444人と微小ながら増加した。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、減少傾向となっていたが、令和4年度は275,776人と新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度の数値には届かないものの、回復傾向にある。

⑤ 今後の対応

今後も、中心市街地への来訪者の増加および回遊性の向上、本市への観光客の増加を実現していくため、本計画における事業の着実な推進により歩行者の歩行環境を向上させることで、本市中心部における歩行者通行量の増加に繋げていく。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年												
効果	iv 祭礼や伝統行事の活動継続に伴う地域の活性化														
<p>① 効果の概要</p> <p>地域資源活用人材育成事業や柞原八幡宮等祭礼継承基盤整備事業の実施により、南蛮BVNGO交流館や大友氏館跡庭園整備見学ツアーや大友氏遺跡フェスタなどのイベント等に訪れた来訪者の認識向上が図られているとともに、柞原八幡宮に関わる地域住民が祭礼や伝統行事の活動継続の一員となることで地域の活性化に貢献している。</p>															
<p>② 関連する取り組み・計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>他の計画・制度</th> <th>連携の位置づけ</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大分市文化財保存事業</td> <td>あり</td> <td>R3～9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>おおいた地域伝統文化応援事業</td> <td>あり</td> <td>R3～7</td> </tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	大分市文化財保存事業	あり	R3～9	2	おおいた地域伝統文化応援事業	あり	R3～7
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度												
1	大分市文化財保存事業	あり	R3～9												
2	おおいた地域伝統文化応援事業	あり	R3～7												
<p>③ 効果発現の経緯と成果</p> <p>■ 地域資源活用人材育成事業</p> <p>歴史を活かしたまちづくりを定着させるため、地域資源の魅力を自ら発信する人材となる史跡ガイドを募集・養成しており、多数の応募者の中から平成29年度に16名、平成30年度に10名、令和元年度は7名の史跡ガイドを育成および登録した。令和元年以降も30名程度を維持できており、史跡ガイドによる大友氏遺跡フェスタでの庭園ガイドやパネル展示の説明、南蛮BVNGO交流館におけるガイドイベント等で祭礼や伝統行事も含めた地域資源の魅力発信に努めている。</p> <p>■ 柞原八幡宮等祭礼継承基盤整備事業</p> <p>柞原八幡宮に関わる「浜の市」や「賀来の市」などの諸祭礼の構成要素である「供奉太鼓」をはじめとする無形民俗文化財の保存・継承を図るため、それらの保存団体や活動団体などが用具の整備を実施する場合に支援を行い、祭礼や伝統行事の活動継続に寄与しており、地域住民が積極的に参加していることから地域の活性化に繋がっている。</p> <p>■ 文化財における普及・啓発、民間団体への支援・連携に関する取り組み</p> <p>伝統芸能の伝承者の功績を讃え、伝承者を育成して地域の活性化に資することを目的として令和元年度に伝統芸能伝承師認定制度を設けている。これまでに、3団体（柞原太鼓保存会・深山流伊与床五柱神社神楽社・鶴崎おどり保存会）の11名を認定した。伝統芸能伝承師は、次世代の育成と祭りなどの行事を通して、地域の活性化に貢献している。</p>															
<p>④ 自己評価</p> <p>新型コロナウイルス感染症により中止されていた地域の祭礼や伝統行事が再開され、地域住民が密接に関わる機会が生まれ、活動継続の一員となることで地域の活性化に貢献している。</p>		 <p>鶴崎踊りの様子</p>  <p>賀来の市 大名行列の様子</p>  <p>大分市伝統芸能伝承師 第2回認定式</p>													
<p>⑤ 今後の対応</p> <p>今後も、伝統行事や伝統文化の継承に関する取り組みの継続的な実施により、地域住民が祭礼や伝統行事の活動継続の一員となる仕組みづくりに努め、地域の活性化に繋げていく。</p>															

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
取り組み	A大友氏遺跡歴史公園整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>2030年の大友宗麟生誕500年に向けて、大友館の整備完了を目指し、以下のおり事業を進めている。</p> <p>◆大友氏館跡発掘調査 中心建物等を復元するための発掘調査が行われ、建物配置、規模等が明らかになりつつある。 【実績】 R1:1300㎡ R2: 600㎡ R3:1900㎡ R4:1200㎡ R5:6000㎡</p> <p>◆大友氏館跡庭園遺構整備(約8,000㎡) 平成26年度より庭園の整備工事に着手し、令和2年3月に庭園工事が完了し、令和2年6月より供用開始した。</p> <p>◆大友氏館跡内旧10号等廃止工事 大友氏館跡の一体化を図るため、大友氏館跡内の北東を横断していた旧国道10号(約6000㎡)を令和4年度に撤去を行った。</p> <p>◆大友氏遺跡公有化 史跡指定、公有化を行い、保護活用に向けて前進した。 【実績】 旧万寿寺地区約6400㎡ 史跡指定 R3・4年度 公有化 R5 年度 唐人町跡約900㎡ 史跡指定 R4 年度</p>			
		 <p>大友氏館跡発掘調査の様子</p>	
		 <p>整備された大友氏館跡庭園</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>継続的な発掘調査成果は、建物等の立体復元に向けた重要な基礎資料が得られ、さらに全国的にも珍しい高級陶磁器等が多数出土しており、このような発掘成果は大友氏の顕彰活動にも寄与している。</p> <p>また2030年の大友宗麟公生誕500年に向けて、整備基本計画のスケジュールに沿いながら、遺跡整備、史跡指定・公有化等を行っており、概ね計画通りに進んでいる。</p> <p>そして中心建物や門、塀等の立体復元の内容を具体的に盛り込んだ整備基本計画改訂版を令和5年度末に策定予定であり、令和6年度から基本設計に取り組む予定である。</p>			
外部有識者名	大分大学 名誉教授 佐藤 誠治		
外部評価実施日	令和6年2月21日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>大友氏館跡の景観は、刻々と変化しており、事業が進捗していることが伺える。特に令和2年に完成した庭園の復元は、大友館の存在をアピールすることになり、外部から目視で認識できるようになったことは大きい。</p> <p>また旧10号線の撤去工事、旧万寿寺地区の公有化など、埋蔵文化財等の保存が進んでいることも重要である。</p> <p>今後は庭園だけでなく、大友館中心建物等を立体復元し往時行われていた年中行事を再現した歴史体験などによる史跡の活用、情報発信を計画的に行い、魅力の向上および来訪者の増加につなげていきたい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>大友氏遺跡の保存については、公有化・史跡指定を進めていく。またこれからの大友氏館跡の整備活用については、基本計画に沿って、発掘調査により内容を把握したうえで、復元整備を積極的に進める。特に大友館中心建物（主殿）、塀、門等の立体復元は、2030年の大友宗麟生誕500年の完了をめざし、大友氏遺跡の歴史的風致の維持向上を図っていく。</p>			

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
取り組み	B重要文化財 柞原八幡宮本殿他4棟保存修理事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>柞原八幡宮は、希少な八幡造の本殿をはじめ10棟が重要文化財に指定されている</p> <p>本事業では、平成30年度から8カ年をかけ、本殿他4棟（西宝殿・東宝殿・附八王子社・宝蔵）の解体修理、半解体修理及び部分修理により根本修理を行うものである。</p> <p>R1年度 素屋根設置、西宝殿・東宝殿解体、本殿解体着手 R2年度 本殿解体完了、附・宝蔵半解体 R3年度 本殿：耐震補強工事、木工事、塗装工事 附・宝蔵：木工事、屋根工事、小舞掻き及び荒壁付け R4年度 本殿：耐震補強工事、木工事、塗装工事 東西宝殿：耐震補強工事 附・宝蔵：木工事、屋根工事、土壁塗り、建具工事 R5年度 本殿：耐震補強工事、木工事、屋根工事、塗装工事 附・宝蔵：屋根工事</p>			
 <p>修理前の柞原八幡宮本殿</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>本殿梁・桁組立の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>本殿化粧垂木組立の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>本殿耐震補強工事の様子</p> </div> </div>			
<p>② 自己評価</p> <p>歴史的風致維持及び向上方針(1)歴史的建造物の保存・活用に関する方針において、老朽化への対応に関する事、耐震化やユニバーサルデザインに関する事が挙げられており、本事業により、重点区域の核となる建造物の修理・耐震化が進むこととなる。</p> <p>本事業が完成すれば、老朽化や損傷がみられる歴史的建造物の修復・保存にとどまらず、歴史的建造物を利用しやすい環境が構築されることで、魅力ある歴史的価値と景観をもつ有力な観光資源として活用の可能性を広げることが期待できる。</p>			
<p>外部有識者名</p>		<p>大分大学 名誉教授 佐藤 誠治</p>	
<p>外部評価実施日</p>		<p>令和6年2月21日</p>	
<p>③ 有識者コメント</p> <p>本殿他4棟については、これまでのところ概ね予定された工程どおりに事業が進んでおり、およそ160年振りとなる根本改修によって貴重な文化財を守り未来に伝えられるようになるだけでなく、大分市を代表する観光資源としての魅力が大いに増大することも期待できる。2期工事で予定されている東西廻廊や拝殿等、残り7棟の修理が完成することにより、事業全体がようやく完了することになるため、2期工事についても遺漏なく準備を進めてほしい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>第1期事業については、令和7年度の完成に向けて文化庁や県教育委員等とも連絡を密にしながら進めるとともに、事業の完了についての情報発信を行いその魅力を発信する必要がある。また、引き続き予定される2期工事では、西門や廻廊、拝殿が対象となるため、工事中における来観者の動線や参拝場所などについて事前の検討を行い、事業着手に向けて準備する必要がある。</p>			

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
取り組み	C大友氏遺跡情報発信事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

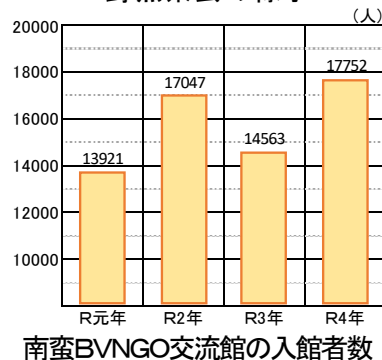
国指定史跡「大友氏遺跡」をはじめ、大友宗麟の功績と大友氏の歴史を広くPRするため、「南蛮BVNGO交流館」（平成30年10月開館）を情報発信拠点として、大友氏館跡庭園や中心建物域において、野点茶会や庭園ライトアップのほか、甲冑づくりなどの体験型ワークショップ、関係団体と連携した火縄銃の実演などを実施した。また、各イベントでは、市民ボランティアによるガイド活動なども行っている。



野点茶会の様子

また、郷土愛を醸成することを目的として、大友宗麟副読本を市内小学6年生に配布するとともに、出前授業や「FUNAIジュニア検定」（歴史検定）などを実施している。

令和5年6月からは、新たな情報発信ツールとして、大友氏遺跡を含む市内の有形・無形の文化財、自然景観などを公開するウェブサイト「大分市デジタルアーカイブ～おおいの記憶～」の運用を開始し、どこからでも本市の文化資源を閲覧できるようになっている。



南蛮BVNGO交流館の入館者数

② 自己評価

整備の進む大友氏館跡では、「南蛮BVNGO交流館」を情報発信拠点として、年間を通じてのイベントを開催するとともに、遺跡をより身近に感じてもらうことを目的とした、市民ボランティア（※）によるガイド活動のほか、小中学生を対象とした「FUNAIジュニア検定」などを行ってきた。

それらの活動が新聞・TV等を通じて情報発信されることにより、コロナ禍にあっても、南蛮BVNGO交流館の来館者数は一定水準を保っていますが、来訪者の年代をみると、依然、若年層の割合が低い傾向があるので、引き続き、各種イベントや広報については、ターゲット層を絞った内容に工夫していく必要がある。

（※）大友氏遺跡史跡ボランティアガイド、FUNAIジュニアガイド

外部有識者名	大分大学 名誉教授 佐藤 誠治
外部評価実施日	令和6年2月21日

③ 有識者コメント

大友氏遺跡は、大分市のまちづくりの根幹をなす遺跡であることから、地域住民のみならず来訪者への理解を深めてもらう取組が重要である。

大友氏遺跡情報発信事業では、各イベントにおいて、実際に遺跡に触れ・学べる工夫がなされている。また、昨年公開された「大分市デジタルアーカイブ」は、大分市の文化資源を次世代に継承するだけでなく、観光や教育としての活用を目的に文化資源の情報と併せて、マップで場所を確認することができ、歴史的風致に訪れるための工夫がされており、歴史的風致維持向上に寄与するものとして評価することができる。引き続き、誰もが大友氏遺跡をはじめとする文化財を知る機会が提供され、情報発信との連携により現地に訪れる来訪者が増えることを期待している。

④ 今後の対応

引き続き、「南蛮BVNGO交流館」を情報発信拠点として、大友氏遺跡をより身近に感じ、親しみの持てるイベントを企画していくとともに、「大分市デジタルアーカイブ」をより多くの人に活用してもらうため、今後とも効果的な情報発信に努めていきたい。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年																																																								
取り組み	D地域資源活用人材育成事業	種別	歴史的風致維持向上施設																																																								
<p>① 取り組み概要</p> <p>市民とともに歴史を活かしたまちづくりを推進するため、市民ボランティアガイドと連携した事業を展開している。</p> <p>「FUNAIジュニアガイド」は、小中学生を対象とした「FUNAIジュニア検定」の合格者から希望者を募り、所定の研修を修了した児童生徒をジュニアガイドに認定し、任期終了（高校三年生）までの間、年間を通じた基礎研修（座学・実地）や歴史・文化施設の見学などにより育成を行っている。</p> <p>「史跡ガイド」は、専門的な解説や来訪者へのおもてなしを目的として、ガイド教本を基にした基礎研修（座学・実地）のほか、自主イベントの企画・運営の実施により育成を図っている。</p>		 <p>FUNAIジュニアガイド</p>  <p>史跡ガイドの様子</p>																																																									
<p>市民ボランティアガイド在籍者数 （R5.4.1時点）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">史跡ガイド</th> <th>登録者数</th> <th>在籍者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年度</td> <td>期</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1期</td> <td>16</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>2期</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>3期</td> <td>7</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>33</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table>		史跡ガイド		登録者数	在籍者数	年度	期			H29	1期	16	14	H30	2期	10	8	R1	3期	7	5	計		33	27	<p>FUNAIジュニアガイド</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>期</th> <th>登録者数</th> <th>在籍者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>1期</td> <td>14</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>2期</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>3期</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>4期</td> <td>8</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>5期</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>39</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>		年度	期	登録者数	在籍者数	H29	1期	14	2	H30	2期	5	1	R1	3期	2	2	R2	-	-	-	R3	4期	8	7	R4	5期	10	10	計		39	22
史跡ガイド		登録者数	在籍者数																																																								
年度	期																																																										
H29	1期	16	14																																																								
H30	2期	10	8																																																								
R1	3期	7	5																																																								
計		33	27																																																								
年度	期	登録者数	在籍者数																																																								
H29	1期	14	2																																																								
H30	2期	5	1																																																								
R1	3期	2	2																																																								
R2	-	-	-																																																								
R3	4期	8	7																																																								
R4	5期	10	10																																																								
計		39	22																																																								
<p>② 自己評価</p> <p>FUNAIジュニアガイドは6年目を迎え、令和5年度には小学4年生から高校3年生の22名が在籍し、ガイド活動の広がりと共に併せて、FUNAIジュニア検定の受検者数も増加傾向にあるなど、若年層に向けたPRに重要な役割を担っている。また、史跡ガイドは現在27名が在籍し、通常の土日ガイドに加えて、団体からのガイドの要望も増えており、いずれの活動も人材育成につながるとともに、大友氏遺跡の情報発信に欠かせない存在となっている。</p> <p>一方、育成研修や活動内容のマンネリ化、ボランティアガイド間の知識やノウハウの継承などが課題となっている。</p>																																																											
外部有識者名	大分大学 名誉教授 佐藤 誠治																																																										
外部評価実施日	令和6年2月21日																																																										
<p>③ 有識者コメント</p> <p>「FUNAIジュニア検定」や「FUNAIジュニアガイド」は、子ども達のふるさとの歴史に対する関心を高めるとともに、郷土愛の醸成にも大きく寄与していると思われる。今後も、子ども達を対象とした人材育成を地道に続けることにより、大友氏遺跡をはじめ、歴史的風致維持向上への理解の裾野が広がることを期待したい。また、文化財継承の担い手である「史跡ボランティアガイド」と連携した活動についても、歴史を活かしたまちづくりに不可欠であるため、「FUNAIジュニアガイド」と同様にさらに活動の場が広がることを期待したい。</p>																																																											
<p>④ 今後の対応</p> <p>今後も、「FUNAIジュニア検定」の受検者増にむけて、広報とともに検定内容や受検場所を改善していきたい。また、FUNAIジュニアガイドや史跡ボランティアガイドとの連携を密にしつつ、年間の研修内容や活動内容を工夫していきたい。</p>																																																											

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	1 柞原八幡宮の祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 III 歴史的風致の情報発信と観光への活用 IV 伝統行事や伝統文化の継承		

① 歴史的風致の概要

柞原八幡宮は、本市西部の緑豊かな自然に恵まれた八幡地区にあり、豊前国の宇佐神宮より分霊されたことが社の始まりといわれる。古くから「豊後国一宮」として信仰を集め、特に豊後国司や豊後国守護大友氏、府内藩主たちによって手厚く保護されてきた。

柞原八幡宮の祭礼は、それらが距離の長い御神幸を伴う場合が多いこともあって、八幡地区や賀来地区をはじめ多数の地区の人々が参加して受け継がれており、祭礼が行われる道や建物を含む市街地が一体となって歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

■ 伝統行事や伝統文化継承の取り組み

令和元年度には、浜の市の祭礼で供奉太鼓を出している上白木地区において、「おおいた地域伝統文化応援事業」助成金を活用した用具の整備を行なった。

また、令和元年度に創設された、伝統芸能の継承活動に尽力した指導者を顕彰する「伝統芸能伝承師」制度に基づき、浜の市祭礼の供奉太鼓で市指定無形民俗文化財である上八幡地区の「柞原太鼓」の指導者1名を伝統芸能伝承師に認定した。

■ コロナ禍による祭礼の縮小と復活

令和2年に始まるコロナ禍により、令和2・3年度には浜の市は行なわれず、令和4年度は7日間から4日間に短縮し神幸行列をせず、仮宮での太鼓演奏（神にぎわい）等は再開した。令和5年度には日程は4日間であったもののようにく神輿や神幸行列を伴う祭礼が従前通りの内容で復活した。

賀来の市についても令和2・3年度については神事のみが行なわれて神幸行列が行なわれなかったが、令和4年度には神幸行列を縮小して実施、令和5年度には6年に1度の大規模な神幸行列「卯酉の神事（賀来の大名行列）」が通常通り催行された。

祭礼が中止となったり縮小されていた3年間には、祭礼を担う各地区のうち、元々過疎化や少子高齢化が進行していた地区においては、担い手の減少がいよいよ深刻になり、祭りが再開されても通常どおりの催行が可能か危ぶまれた。しかし、関係者の努力により令和5年度には日程短縮は残るものの概ね従前どおりの開催ができた。



3年振りの浜の市での太鼓（R4）



4年振りの浜の市での神輿（R5）



R5年の賀来神社卯酉の神事

③ 自己評価

助成金制度や指導者顕彰制度の創設により、伝統行事・伝統文化の継承支援に着手したが、その後のコロナ禍で、保存団体の活動が低調となり進んでいない。少子高齢化や過疎化により、祭りの担い手が減少する中でのコロナ禍で、2年間祭りが開催できず令和4年度にも日程縮小などを余儀なくされ、祭りの存続自体が危ぶまれた。しかし、令和5年度には概ね通常どおりの形態を保って開催されるに至ったことは評価できる。

④ 今後の対応

多くの担い手と特徴的な道具を用いる神幸行列を含む祭礼であるため、催行に必要な用具の修繕・整備等に関して担い手の負担軽減を図ることが、祭礼を守り継承する上で必要である。こうした整備等に「おおいた地域伝統文化応援事業」による助成が適用できることを担い手の各団体に直接説明して周知を図り、地元負担を軽減しつつ祭りの存続や再活性化につなげたい。また、復活した祭礼行事については、観光資源としても活用を図るためSNS等を活用した積極的な情報発信を進める必要がある。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	2新旧府内の祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 II 歴史的風致の周辺環境整備及び景観形成 III 歴史的風致の情報発信と観光への活用 IV 伝統行事や伝統文化の継承		
<p>① 歴史的風致の概要</p> <p>中世に大友氏館を中心として築かれ、戦国時代には国際貿易都市に発展した町「府内」は、江戸時代初めに府内城下に移され、現在の中心市街地の原型となった。</p> <p>多くの祭礼は、夏季に行われており、6月後半から7月末までの1ヶ月間は、まちのいたるところで鉦(かね)や太鼓の音が聞こえ、祭礼を知らせる幟(のぼり)が見られる。こうした祭礼を中心に当地区の歴史的風致を形成している。</p>			
<p>② 維持向上の経緯と成果</p> <p>■歴史的建造物の保存・活用</p> <p>県指定史跡府内城跡のうち宗門櫓については、平成29年度から半解体による修理を行い、令和2年度に完成した。一方、令和4年1月22日の地震により人質櫓が、令和5年6月末の大雨により府内城跡の西側土塀が破損し、それぞれ災害復旧工事を進めている。</p> <p>また、旧大分県立大分図書館（アートプラザ）は昭和41年に建築された磯崎新氏設計の建造物であるが、令和4年10月に国登録有形文化財として登録され、今後の保存・活用への取り組みが期待されている。</p> <p>■伝統行事や伝統文化の継承</p> <p>当地域では、祭礼等で使用する用具等の整備について、おおいた地域伝統文化応援事業の助成金を適用して進めており、令和2年度に1件、令和3年度に2件、令和4年度に1件、令和5年度に1件、計5件1,628千円の助成事業を行い、太鼓の張替えやチキリン用台車製作、提灯の修繕等を実施した。</p> <p>■コロナ禍での祭礼の縮小と復活</p> <p>当地域においても、令和2年度～4年度にはコロナ禍により祭礼の中止や縮小が余儀なくされたが、令和5年度には概ねコロナ禍前のおり催行されている。</p>			
<p>③ 自己評価</p> <p>府内城をはじめとする伝統的な建造物に加え、地域景観の重要な構成要素に旧大分県立大分図書館等の近代建造物についても保存する取り組みを進めている。コロナ禍により、本地域の諸祭礼も中止や縮小を余儀なくされたが、その間もおおいた地域伝統文化応援事業の助成金を活用した用具整備等を積極的に進めていたことが、コロナ後の祭礼再開に役立ったといえる。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>歴史的風致を構成する重要な建造物については、近代建築も含めて保護・保存を図るよう取り組みを継続的に進める。特に府内城については、災害や経年劣化への対応を適切に行って修復を進める。また、地域の伝統的な祭礼等については、おおいた地域伝統文化応援事業の周知を充分に行い、用具の修理や整備を支援することも含めて、伝統の保存・継承を図るよう努めていく。</p>			



半解体修理が完了した宗門櫓 (R2)



国登録有形文化財になった旧大分県立大分図書館 (アートプラザ)



通常通り催行された西新町天満社夏季祭礼の神輿巡行 (R5)

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	3萩原のまちと祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ歴史的風致の情報発信と観光への活用 Ⅳ伝統行事や伝統文化の継承		

① 歴史的風致の概要

萩原地区は岡藩の港町として整備され、府内藩の所領となってから製塩業によって町が栄えた。江戸時代には人形を町に飾る行事があり、人形山車として引き継がれている。このような歴史的な背景とまちなみを人形山車が巡行する祭りが幅広い世代により維持され、まちなみと祭礼行事が密接に結びついた歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

■ 伝統行事や伝統文化の継承

萩原地区では、おおいた地域伝統文化応援事業の助成金を積極的に活用して祭礼に使用する人形山車等の整備を行っている。令和元年度～令和4年度に毎年各1件、計4件の助成事業（助成額2,496千円）を行い、山車の修理や人形小屋に展示する人形の製作、獅子頭の修繕、法被の新調等を実施した。

令和4年度に新たに設けられた大分市の登録文化財制度に基づき、「萩原天神社祭礼の人形行事」を市登録無形民俗文化財として登録して保護することを目指し、市教育委員会で調査を進めている。



代替行事として長久寺で山車を展示（令和3年9月）

■ コロナ禍での祭礼の縮小と復活

令和2・3年度にはコロナ禍により、神輿の渡御や山車の巡行が中止された。しかし、令和3年度には地域の祭り離れを懸念した有志の発案により、代替行事として通常の祭礼日の翌月に山車の展示を行い、町内のお披露目巡行が行われた。令和4年度にも神輿の渡御は行われなかったが、台数でコロナ前の1/3（人形山車4基）ではあるが山車の巡行が復活し、獅子組の巡行も行われた。令和5年度には神輿の渡御も復活して通常どおりの祭礼が催行でき、山車巡行も9台まで回復した。



山車4台による巡行再開（令和4年）

③ 自己評価

コロナ禍による祭礼の中止や縮小を余儀なくされた時期にも、有志による山車の展示やお披露目巡行の工夫を行っており、コロナ後の祭礼の復活につなげることができたことは高く評価できる。また、おおいた地域伝統文化応援事業の助成金を積極的に活用して人形制作や山車修繕等を進めており、一定の成果が得られている。



令和5年人形小屋での人形展示（令和2年度の助成事業で制作）

④ 今後の対応

コロナ前から巡行する山車の数が減少傾向であったが、コロナ禍後になっても、まだコロナ前の数に戻っておらず、今後さらに回復できるか懸念がある。人形山車や人形の展示など、伝統を守った祭礼行事の形態を維持していることに価値を有するが、地元負担の大きい形であることから、おおいた地域伝統文化応援事業等の助成事業による下支えを進めていくことが必要である。また、祭礼についての情報発信を行い、観光への活用を進めることが必要である。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	4三佐の人形山車にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ歴史的風致の情報発信と観光への活用 Ⅳ伝統行事や伝統文化の継承		

① 歴史的風致の概要

三佐地区は、江戸時代に岡藩領であり、参勤交代の際には藩主休憩所としてまた、岡藩領を統治する拠点として「御茶屋」や港、まちが整備され、「御座船」のほか、商品や伊勢参拝の人々を乗せた船も出入りするなど賑わいを見せていた。当地区では、岡藩主により始められたとされる豪華絢爛な山車巡行が三佐大工の技で守り続けられ、祭礼と共に歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

■伝統行事や伝統文化継承の取り組み

野坂神社の春季祭礼で巡行する大型の山車の維持補修には多額の費用がかかることから、おおいた地域伝統文化応援事業の助成金を活用しており、令和元年度までの10年間には6件の助成を受けていたが、コロナ禍による祭礼の中止の影響により、この5年間では令和4年度に1件の山車修繕事業（助成額1,000千円）のみにとどまった。

■コロナ禍による祭礼の縮小と復活

令和2年度にはじまるコロナ禍により、最大の行事である春季祭礼については令和4年度まで祭礼の中止や縮小等大きな影響を受けた。

令和2年度及び令和3年度の春季祭礼は神社での神事のみで神輿は出ず、山車巡行についても令和2年度は全く行われなかった。しかし、令和3年度には少数ではあったが山車の巡行が早くも再開されている。令和4年度には参列者数の制限など感染対策を行いながら神事を行うとともに、神輿巡行も復活、山車については、巡行ルートを縮小しながらも、催行している。令和5年度は、コロナ5類化直前（4月28日・29日）であったが、4年振りにほぼ通常どおり形での春季祭礼が催行され、全地区の山車が巡行に参加した。



令和3年にも少数ながら山車巡行が行われた



4年振りに全地区が参加した山車巡行（令和5年宵宮）



4年振りに復活した神輿巡行（令和5年）

③ 自己評価

三佐地区では、コロナ禍による祭礼の中止や縮小はあったものの当地区の祭礼を特徴づける山車の巡行は早くも令和3年に少数ながら再開され、祭礼実施への熱意が伺える。令和4年度以降の祭礼の再開にあたっては、縮小を是とする意見が強くあったものの、令和5年度にはほぼ通常どおりの形で祭礼を開催できた。

④ 今後の対応

従前より、若い担い手の不足や山車の維持経費が課題であったところにコロナ禍に見舞われたため、祭礼縮小への意見が強まっている。地域負担の大きい大型山車の巡行を伴う伝統的な祭礼の形を守るためには、おおいた地域伝統文化応援事業の一層の周知を行い、費用助成による負担軽減を図る必要がある。また、祭礼についての情報発信をすすめ、観光客の誘致による活性化の取り組みを進める必要がある。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	5鶴崎のまちと祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 III 歴史的風致の情報発信と観光への活用 IV 伝統行事や伝統文化の継承		

① 歴史的風致の概要

鶴崎地区は、江戸時代に熊本藩領であり、参勤交代の際には藩主休憩所としてまた、肥後熊本藩の豊後領における拠点として「御茶屋」が設けられ、その周辺に港や町が整備された。

熊本藩とのつながりに起源をもつ建造物とそれに関わる祭礼が今も受け継がれた歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

■歴史的建造物の保存・活用

県指定史跡毛利空桑旧宅(天勝堂)は令和4年1月22日の地震で壁の崩落等が発生し、令和4・5年度に災害復旧工事を行った。(現在も施工中)



災害復旧工事中の毛利空桑旧宅(令和4年)

■伝統行事や伝統文化継承の取り組み

剣八幡神社の春季大祭(けんか祭り)で使用する用具整備におおいた地域伝統文化応援事業の助成金が活用されており、令和2年度と令和5年度に各1件、助成額合計1,117千円の事業が実施され、かつぎ山車(ケンカ山車)の修理や法被の新調が行われた。



令和5年度のけんか祭りで4年振りにまちを巡行する神輿

■コロナ禍での祭礼の縮小と復活

剣八幡神社の春季大祭(けんか祭り)については、令和2年度から4年度までは、神事のみで恒例のケンカ山車は出ず、令和5年度によようやく4年振りに通常どおりの開催が実現した。

二十三夜祭については、令和2・3年度は法心寺での法要のみで一般参加は行われず、令和4年度より豆茶や千灯明が復活し、令和5年度にコロナ前と同様な通常開催となった。



令和5年度のけんか祭りで巡行するかつぎ山車(R2年度修理)

③ 自己評価

毛利空桑旧宅が地震により破損したが、その後速やかに災害復旧が進められている。けんか祭り等の伝統的な祭礼行事については、コロナ禍での中断があったものの、令和5年度には概ね従前のおり開催できるようになった。

④ 今後の対応

毛利空桑旧宅及び塾跡の建造物は、当地区に残る希少な歴史的建造物であり、今後とも災害や経年劣化へ適切に対応して守っていく必要がある。けんか祭り等の伝統的な祭礼行事については、おおいた地域伝統文化応援事業の助成が適用できることを関係者に充分周知し、用具の修理・整備等を通じて伝統文化を支えていくことが必要である。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	6本神崎の祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 IV 伝統行事や伝統文化の継承		

① 歴史的風致の概要

本神崎地区では、神輿や山車を用いた伝統的な春季祭礼がまち全体を舞台として行われている。また、昭和初期に発見された「石棺」を祀るために始められた祭りも既に伝統行事となり定着している。その舞台となる八幡神社と築山古墳を起点とする2つの祭りが当地区の人々によって受け継がれながら歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

■歴史的建造物の保存・活用

当地区にある県指定有形文化財教尊寺（本堂・庫裡付玄関・書院・御殿・経蔵・鐘楼・山門の7棟）について、令和4年9月の台風により、書院の屋根が被災した。

当該地区の歴史的風致を形成する建造物として、令和4年度に災害復旧工事を行った。



県指定有形文化財教尊寺

■伝統行事や伝統文化の継承

おおいた地域伝統文化応援事業の助成金を活用して神崎八幡神社春季大祭で用いる提灯の新調を行った。助成額は342千円である。

■コロナ禍での祭礼の中断と復活

コロナ禍の影響により、神崎八幡神社春季大祭については、令和2・3年度には少数の関係者が参加する神事のみ行うにとどまったが、令和4年度から感染対策を行いつつ神輿や山車巡行が復活した。

石棺様祭りについては、令和2・3年度には、築山古墳上での神事のみで祭りは開催されなかったが、令和4年度には時間を短縮して開催され、恒例の古代以上による行列もルートを短縮しつつ復活した。令和5年度には、完全な通常開催が実現された。



令和4年度の石棺様祭りで復活した古代衣装行列

③ 自己評価

コロナ禍による2か年は神事みの催行となったものの、令和4年度から復活、令和5年度には通常開催を実現しており、おおいた地域伝統文化応援事業助成金による支援も効果があったと思われる。祭礼とともに歴史的風致を形成する建造物群の保存管理について、自然災害等による被災に対する対応についても、迅速に行うことができた。



令和5年度の春季大祭での山車巡行（提灯はR4に新調）

④ 今後の対応

県指定有形文化財教尊寺は、7棟が県指定建造物であるが、傷みが進んでいる建物が複数あることから、今後保存修理を計画的に進める必要がある。祭礼行事の催行に向けた地元意欲は強く、当面の維持は問題無いものの地元負担を軽減するため、各種助成事業活用の取り組みを継続する必要がある。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	7佐賀関のまちと早吸日女神社の祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 IV 伝統行事や伝統文化の継承		

① 歴史的風致の概要

佐賀関地区は、古代から続く港町である。早吸日女（はやすひめ）神社の祭礼は、佐賀関に住む人々が広く参加して行われる祭りであり、神輿や山車の巡行は、まちの広範囲におよぶ。祭礼は、海との繋がりを基本としながらも当地区がもつ伝統をすべて含んでいる。このように、早吸日女神社と祭礼により良好な歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

■歴史的建造物の保存・活用

県指定有形文化財早吸日女神社・同社家（小野家住宅）、令和4年1月の地震、同年9月の台風により被災した。

これら建造物は、当該地区の歴史的風致を形成する歴史的建造物について、令和4年度に災害復旧工事を行った。

特に小野家住宅については、保存修理のための詳細調査を行い、保存修理計画を策定した。



県指定有形文化財小野家住宅

■コロナ禍での祭礼の中断と復活

コロナ禍の影響により、早吸日女神社神幸祭・還幸祭は、令和2年は神事のみ、令和3年は神輿を台車に乗せ日程を短縮して神幸・還幸を1日で行った。その後、令和4年度には1日に短縮した日程で神輿台車を用いた神幸・還幸に加え、山車の巡行も行われた。令和5年度には、コロナ禍前と同じ2日間での神幸・還幸、通常ルートでの山行に戻った。

なお、祭礼で用いる用具等の整備については、平成30年以前にはおおいた地域伝統文化応援事業の助成を適用して行ったことがあるが、令和元年度以降については同助成金を利用した事業は実施されていない。



令和4年度早吸日女神社祭礼再開した山車の巡行



令和5年度の還幸

③ 自己評価

コロナ禍を経て、早吸日女神社に関わる祭礼等の活動は従前の状態に戻っている。祭礼とともに歴史的風致を形成する建造物群の保存管理について、自然災害等による被災に対する対応についても、迅速に行うことができた。

④ 今後の対応

小野家住宅をはじめ、県指定、市指定建造物である早吸日女神社関連建造物については、費用負担や修理中の利活用について所有者と充分協議しながら、保存修理を進め、守っていく必要がある。また、祭礼行事については、概ねコロナ禍前に戻っているが、担い手の減少が進行しており、おおいた地域伝統文化応援事業の周知をはかることで、継承活動の下支えを進めていく。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	8戸次本町のまちなみと祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保存・活用 IV 伝統行事や伝統文化の継承		

① 歴史的風致の概要

戸次地区は、大分市内で最も良好な歴史的なまちなみが残っており、江戸時代には臼杵藩の在町としての歴史と伝統を受け継いでいる。
このまちなみを守り、次世代へつなげていこうとする地元住民の熱意のもとで、伝統的な祭礼が守り伝えられており、まちなみと一体となった歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

■歴史的建造物の保存・活用

市指定有形文化財帆足本家酒造蔵の外壁等保存修理計画を策定し、令和4年にI期工事の設計業務を行った。同年9月の台風被害を受け、計画を一部変更、応急修理を先行する形で実施する。

帆足本家酒造蔵は、当該地区の歴史的風致を形成する歴史的建造物となることから、計画的に事業を実施する。

■コロナ禍での祭礼の中断と復活

戸次地区の八幡神社春季祭礼は、コロナ禍の影響により、2年間の休止をやむなくしたが、令和5年度には再開することができた。

神輿・子供太鼓山車が神社からお旅所まで歴史的なまちなみを巡幸した。神輿が立ち寄る家々には御幣が配られた。

■大分市戸次本町地区空き店舗等活用支援事業補助金

戸次本町地区は、江戸時代末期から戦前にかけての歴史的なまちなみが現存しているが、空き家・空き店舗の活用が不十分などの課題があった。空き店舗への出店について助成することで有効な利活用を促進し、歴史的風致を形成する建造物群の維持保全を図っている。

令和3～5年度で、補助金の利用により3件の空き店舗を解消。



市指定有形文化財帆足本家酒造蔵



神輿



巡幸の様子

③ 自己評価

当該地区の歴史的風致の核となる帆足本家酒造蔵の外壁等修理計画の策定や空き店舗等の活用支援により良好な景観形成が図られた。

また祭礼についてはコロナ禍による中断はあったものの、令和5年度は従来の形で再開することができ、戸次本町地区における地域の活性化が図られている。

④ 今後の対応

市指定有形文化財帆足本家酒造蔵の外壁等保存修理の計画的な実施と併せて、国登録有形文化財等の当該地区の歴史的風致を形成する建造物群への支援および管理を行っていくとともに空き家、空き店舗の解消を図ることで、歴史的なまちなみの維持保全を図っていく。

また、祭礼行事の担い手の課題はあるものの、地域と連携し、継承活動を支えていく。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
歴史的風致	9野津原の祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ歴史的風致の情報発信と観光への活用 Ⅳ伝統行事や伝統文化の継承		

① 歴史的風致の概要

野津原は慶長6年(1601)に熊本城主加藤清正が領有することになり、佐賀関から熊本に至る街道上の宿場町として整備され、熊本藩主が加藤氏から細川氏になって以降も江戸時代を通じて熊本藩領の宿場町として発展した。

清正公祭は、まちの起源となる宿場町を整備した加藤清正への敬意の念を背景として、明治時代に創始された祭礼で、住民全体が関わって挙行される祭礼とまちが一体となって歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

■コロナ禍における祭りの中断と再開

新型コロナウイルス感染拡大により、令和2年度から令和4年度までの3年間、祭りが開催できなかった。

令和5年5月のコロナ5類化により、4年ぶりに祭りを再開することになったが、再開にあたっては下記の点を変更した。

①神輿巡行の縮小

従来、本町、新町、恵良地区の全戸、約280軒に神輿が巡行・立ち寄りをしてきたが、担い手の負担軽減の観点から、今回の神輿担当地区である本町以外の地区については立ち寄り軒数を制限し、合計200軒までとした。

②日程の変更

従来は加藤清正の命日にちなみ8月24日に挙行していたが、地域内外の祭りの担い手が参加しやすくなるよう、8月第4土曜日に変更し、8月26日に実施することにした。

このほか、女性が参加するプログラムとしてこれまでも女太鼓があったが、今回より新たに女神輿を導入した。

■地域おこし協力隊員による情報発信

野津原地区では、令和2年度から地域おこし協力隊員1名が活動しており、地域で行われる祭礼の様子を取材して情報発信している。4年ぶりに行われた清正公祭りの様子についても公式Facebookや隊員個人のSNSを通じて発信した。



4年ぶりに実施された神輿の巡行



大山車を用いた太鼓演奏



深夜になった神輿の還幸

③ 自己評価

過疎化が進む地域でもあり、祭りの担い手が減少しつつある中でコロナ禍が発生したため、3年間祭りが開催できなかったことによって、祭りの存続自体が危ぶまれることとなった。現実的な開催方法を模索する中で、日程の変更や神輿の巡行の一部縮小などを行って開催に漕ぎつけ、ともかくも存続できたことは評価できる。

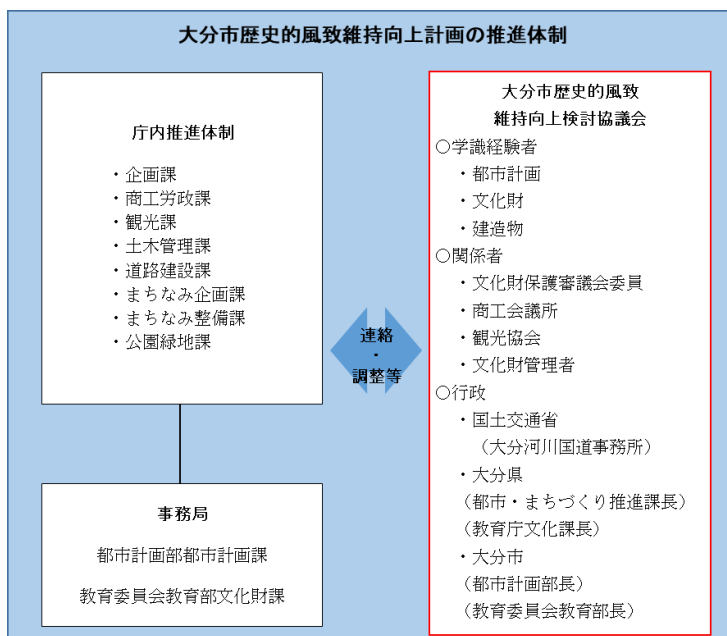
④ 今後の対応

この祭りに特徴的にみられる大山車をはじめ、祭りの催行に必要な用具の修繕・整備等について、「おおいた地域伝統文化応援事業」による助成が可能であることを主催団体に充分説明して周知を図ることで、地元負担を軽減しつつ祭りの存続や再活性化を進める必要がある。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

計画認定当初より、本市における計画の推進体制については、都市計画部都市計画課と教育委員会教育部文化財課を事務局とした庁内関係課により計画及び事業の推進を行うとともに、歴史まちづくり法第11条に基づき設置した「大分市歴史的風致維持向上協議会」とも、計画の進捗管理や変更などの連絡、調整等を行いながら、計画事業の推進を図ってきた。



② 庁内の意見・評価

- 計画の事業推進にあたり、事業担当部局間における連絡・調整を密に取ることにより、円滑な歴史まちづくりの推進に寄与している。
- 「市道府内3号線、市道府内11号線」や「都市計画道路中島錦線」において歴史的経緯を踏まえた美装化などを行うことで、歴史的風致の維持向上だけでなく、市街地の課題の解消にもつながり、周辺地域の活性化に寄与した。
- 事業を実施していく中で、本市の歴史文化資源の魅力についての情報発信も実施し観光資源として活用している。
- コロナ禍において祭礼等の開催が困難となり、祭礼の保存・継承に関する支援への申請が無い状態が続いていたが、令和5年では祭礼の開催がコロナ禍以前の状況に戻りつつあることから、今後は関係団体等に支援事業についての周知を行い、歴史文化の継承を図っていく必要がある。

以上のことから、今後も継続して現体制を維持し、関係部局間の連携を図り、円滑な歴史まちづくりを推進するとともに、維持向上に向けた取組みの改善を図っていく。

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
<p>① 住民意見</p> <p>■大友氏遺跡に関する地域住民意見</p> <p>【活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大友氏遺跡の施設のみでの活用ではなく、名産品など人が寄り付きやすいコンテンツと組み合わせ大友氏遺跡への来訪の促進につなげ、大友氏について学ぶきっかけとなるものに取り組む必要があると思う。 ・庭園の活用についてもっと集客を考慮した取組みを行ってほしい。 <p>■柞原八幡宮に関する地域住民意見</p> <p>【活動継続について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の活動休止期間によって生じた、技術の低下や地域及び学校からの協力が得られないなどの課題に対応するとともに、コロナ以前と同様の活動に戻すことが重要。 ・後継者の育成のためにも、小中学校において地域の伝統行事等を学ぶ時間確保や供奉太鼓などを披露する場がほしい。 ・浜の市の歴史は市から始まったことからフリーマーケットなど祭礼の継続のために浜の市の新たな取組みを行っていく必要がある。 			
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>■大分市歴史的風致維持向上協議会（令和6年2月21日 開催）</p> <p>【建造物等の保存・活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の補助事業の補助メニューが変わって、国指定の石垣でなくても石垣調査は補助の対象となるので、府内城の石垣の管理保全を計画的にやっていくことを検討してみてはどうか。 ・石垣などの文化財の近くに行き、見ることができるとは重要で、それを楽しみにしている人もいます。安全性はもちろん大事なので、調査整備を進めてほしい。 <p>【情報発信と観光への活用について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分市は山車の数が多く、全国的にもこれくらいの密度で、現在まで存在していることは珍しいと聞くことから、大分市全体の山車を国に認めてもらうなど、大分市全体の文化財の情報発信も大事だと思う。以前行った、大分市の山車が勢ぞろいするイベントは、インパクトがある情報発信となっただけでなく、イベントによって、それぞれ神社の山車が活力を持って帰るといったいい循環が生まれたと思うので、4、5年に1回の頻度で開催できないであろうか。 ・シニアを対象とした事業が多い気がするので、もう少し幅広い広報や発信が効果的だと思う。またお祭りは人気のあるコンテンツなので、観光としてのあり方も検討してはどうか。 ・観光目的の先行ではなく、まずは地域住民が歴史や文化を知り、誇りを持ってもらうための情報発信するという発想をしないと、地方での文化の向上は見込めない。 ・計画冊子を読めば、大分市の歴史がよくわかるので、子ども達用にこの計画の概要版の作成や、展示などができたらよいと思う。 <p>【伝統文化・伝統行事の継承について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事を行っている団体は限られているので、伝統行事の継承に関する「おおいた地域伝統文化応援事業」の周知は、すでに行っている個別の団体に直接伺う取組みが効果的だと思う。 ・祭礼の人材確保については、地元地区の過疎化が進んでいることや、祭礼が決まった日程で行われるため平日に行う場合は、お神輿の担ぎ手等の確保が困難なことが祭礼の継続における課題であり、いずれは地元地区関係なく関心のある人に頼らざるを得ないと感じる。 ・伝統行事の継続については、外部からの応援の人を地域の家の責任で受け入れる事例もあり、地域外からの協力隊をどう組織化するかが重要で、祭礼に参加したい人は、結構いるので、そういう人の活用は一つの方法と思う。 ・歴史的風致維持向上の重要な要因であるお祭り等の継続が困難な状況を変えることが課題だと思う。 ・柞原の浜の市と府内の祇園の祭りは大友氏歴代頭首が必ず出ている記録があるので、絶えることのないように、方策の模索や、大友と絡めてアピール等をして参加者を集める必要がある。現在は府内の祇園という形ではなくなっているが、以前は府内戦紙の時に、山車を出していたので、祇園と絡めた府内のまちおこしを考えてほしい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的風致や観光地を巡るにも移動距離が長く、公共交通機関の便数が少ないなど交通手段もバラバラなので歴史的風致等を巡ることができる仕組みがあるといいと思う。 			

市町村名	大分市	評価対象年度	R1～R5年
<p>① 全体の課題</p> <p>計画策定から5年間で本市の歴史的風致の維持向上を目指し事業を実施してきたが、最終年度に向けて以下の課題について取組む必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史的建造物の保存に関する課題 近年頻発している大雨や地震などの自然災害による損傷や経年劣化に対応し、歴史的建造物の適切な保存を図る必要がある。 ■ 歴史文化資源の情報発信と観光振興に関する課題 コロナ禍によって縮小・中止を余儀なくされた祭礼等は、令和5年には概ねコロナ禍以前の規模で開催され、集客においてもコロナ禍以前にもどりつつあるものの、依然として衰退傾向にあり、今後は地元住民に対する歴史的価値の周知を重視するとともに観光資源としての活用も図っていく必要がある。 ■ 伝統行事の継承に関する課題 祭礼に用いる道具や山車の修繕にかかる費用が大きいことから、祭礼を行う地元の負担が大きく、山車が数の減少するなど伝統行事や伝統文化の継承が危ぶまれており、活動の存続に向けた支援を継続して今後行う必要がある。 			
<p>② 今後の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史的建造物の保存に関する対応 被災した歴史的建造物に対して保存修理計画を策定するなど復旧に向けた対応に努めるとともに、未指定の文化財については調査を行い、指定・登録を検討し適切な保存を図り、本市の歴史的風致を形成する重要な構成要素である歴史的建造物の滅失を抑制するため、継続的な保全を図る。 ■ 歴史文化資源の情報発信と観光振興に関する対応 SNSやホームページ掲載など各種情報媒体を活用した情報発信を行い、祭礼やイベントを通じて地域住民が地域の歴史や文化について理解を深める機会を創出するとともに、観光客の誘致により更なる活性化に向けた取組を進める。 ■ 伝統行事の継承に関する対応 「おおいた地域伝統文化応援事業」について地元の説明するなど周知を図り、祭礼活動における地元の負担を軽減するとともに、祭礼の保存・継承に向けた支援を行う。 			